

起て！全國の労働者!!!

軍縮問題に對する宣言！

一 大任持の職人、大任持の生産者、それぞれとする職能だ。そんなものは吾々労働者に何の用もない。職能など言はずに、全部職能して貰いたい。が直にそれが出来ないなら、職能も、しないよりは勝た。

二 軍縮をやれば失業が増える、分りきつたことだ。軍縮工糧に失業者の職能を不安に陥れ入れる。これも分り切つて居る。しかし、それかと言つて吾々は決して軍縮に反対しない。我々労働者は他の何れの階級にも増して軍縮の存在を喜ぶから。

三 然るに「軍縮の結果は失業者が増す故に労働者は之に反対する」などと言ひ廻らす連中がある。それは軍縮者が資本家、でなければそれ等の手先を、承はる労働者ローカールの徒勞に定つて居る。純な労働者は決してそんな道徳に乗りつこなした。

大正十年十二月

労働組合同盟會

- 〔本部〕東京市外西大久保五一九
- 造船船工労働組合
- 日本機械技工組合
- 純労働者組合
- 印刷工組合信友會
- 日本交通労働組合
- 日本礦夫總同盟
- 教員組合啓明會
- 新聞工組合正進會
- 時計工聯合會

四 吾々労働者は今の經濟組織、階級制の生産方法の存続する限り、軍縮のある無しに保はらず年が年中、生活不安に襲はれて居るのだ。階級的階級に欠く階級、同時に進行される生産者と生産者と階級階級、それは資本主義に固有する因果なんだ。だから失業の不安を去るには今の生産組織を根本的に變へる外全く道はないのだ。

五 それに、軍縮は職の都合でやることなのだ。失業手当を支出する十分の責任が誰にあるのだ。吾々は正當の權利として之を要求しなすればよいのだ。吾々の要求が通るならば来より疑いだ。が、通るも通らぬも一に吾々の職の強さ如何にあるのだ。職が強ければ通る、弱ければ通らないのだ。

六 軍縮は階級の大敵だ。従つてウソと金が舞ひて来る。職さへあれば共になせよ。

七 然らばどうすれば職が強まるか、押しが利か、それは階級の偉力による外ないのだ。今度の軍縮は資本主義に對してはなくてはなくて全體の資本主義に對するのだ。吾々の階級も個々別々、離れ離れの階級ではなしに、一握の階級や階級者を組織して此階級労働者の完全なる總聯合を組織し、大団圓の偉力によつて、職力なる、かの資本組織に勝つてやらない。

八 組合を有するものは此階級を一つにして聯合せよ、組合を有せぬ労働者は此階級に組合を組織せよ、而して全階級階級の各に於て其の行動を共にせよ。

演説會

芝色川口町吉本亭

大正十年十二月十日 午後六時

主催 労働組合同盟會

目的 軍縮問題に對する宣言

入場料 無し

會務者

- 造船船工労働組合
- 日本機械技工組合
- 純労働者組合
- 印刷工組合信友會
- 日本交通労働組合
- 日本礦夫總同盟
- 教員組合啓明會
- 新聞工組合正進會
- 時計工聯合會

財團